京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
廣告料　▲五號活字十七字詰一行金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久納一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社　電話六六三番　振替口座京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南金六町七番地

雜録

●朝鮮史蹟　倭城臺（上）

京城　南冥生

木覓山の中腹地平かにして氣清き處、鮮人之を倭城臺又は倭將臺と云ふ、日人亦稱へて得色あり、吾れ今倭城臺を調査して之を史蹟に加ふ。

按ずるに倭城臺又は倭將臺の稱は壬辰役乃ち豐太閤征韓役に起りたるものにして三百年前鮮人の新たに附せし名稱也、吾れ史を讀んで日鮮關係の史蹟を研究調査する每に未だ曾て先人の覇圖今人績業の基礎を築き揃へつゝ來りたるを感ぜずんばあらず、倭城臺の如きは即ち日韓關係の歷史を收縮せる政治上の興味ある地點也、吾人をして今しばらく往年の史實を辿らしめよ。

文祿元年四月（朝鮮宣祖大王壬辰）豐太閤水陸二十萬の兵を發して征韓の快擧あり素より日韓を併合して東亞の盟主たらんことを期したりし也、加藤清正小西行長之が先鋒として浮田秀家、毛利輝元軍事を統ぶ。

先鋒の諸將釜山に上陸するや南鮮の警備風聲に驚き戰はずして走るもの多く先鋒諸將は長驅して五月既に京城に審しぬ、行長は清正に先んずること一日東大門より入り清正は漢江を渡りて南大門に着す、之より先南方の敗報京城に至る櫛齒の如し宣祖大王顏色を失ひ群臣の驅きを率ひて西方に蒙塵す、京城の混亂例ふべくもあらず、行長一兵に觸らずして王城を占領し清正龍山に陣す、我兵王城を巡覽し其壯觀に驚く、實に之れ李朝發祥の地にして北漢の山漢江の水、在昔鄭道傳、李稷等の諸豪傑が相せし山河の固めも畢竟何するものぞ一人の關に據て拒ぐものなし

諸將既に京城に入る、浮田秀家、景福宮に陣す、毛利輝元城外に陣す秀家輝元等京城を策戰地と諸將をして進退を計らしむ、小西行長、加藤清正、鍋島直茂、黒田長政、大友義純等の軍將皆盛して西に向ひ征戰の局面大に展開す、時に明の援軍南下の勢あり、太閤即ち石田三成、增田長盛、大谷義隆をして遊軍六萬を以て應援せしむ伊達政宗も亦請ふて而して加はる。

明の大軍韓兵と勢を合せて小西行長を平壤に壓するに及び我諸將京城に集合す時に文祿二年一月也、十萬の我軍京城內外に陣を結びて明軍の至るを待つ寒月軍營を照らし諸將慘として聲らず

浮田秀家五千餘騎を以て南別宮に陣し石田三成、增田長盛、大谷義隆等各千餘騎を以て木覓山に陣す加藤清正、鍋島直茂、加藤光泰、前野但馬守、伊達政宗、小西行長、柴田長政、大友義純、毛利壹岐守、島津又七郎、高橋九郎、秋月三郎、筑紫上野介等總勢五萬を以て城內各所に散陣し毛利輝元以下其他の諸將は龍山方面を根據として南大門外より西大門外に陣す浮田秀家總司令官を辱ふすと雖も軍謀術策は一に木覓山の遊擊將軍に出づ、木覓の中腹には人馬の往來勇ましく旋旗半空に翻翩たり、鮮人遙かに望見して之を倭城と云ひ倭將陣と云ふ倭城臺の名蓋し此に起る。

●仁川卯月會俳句第九輯（三）

――△題、月さまざま△――
一千六百二十句中拔粹　上座八十章逆列
彩雲居　丹葉　撰

明月や野守りが宿は白地　是空
鐘斗り更けた宵なり月今宵　凌霜
名月に傾け盡す斗瓢かな　海南
違約せし人はなけれど雨の月　竹賀
明月や山三尺の離れごと　梅華
萬山は沈默守り海の月　瓢月
月の欄に倚る人は誰が為　一滴
草も木も皆名月の光り哉　開城松郷
拍手や名月拜す橋のうへ　田吾
松蔭は黒し月澄む砂の上　一樹
更ける夜も忘れて月の二居哉　是空
更ける月十月の漁村寂として　凌霜
山院は碁客の圓居月今宵　梅華
月千里甲板上の高咄し　一杯
船曳に延踏まるゝ月見かな　一樹
椽端に供へ申すの月の膳　瓢月
是れ丈けが皆月の人須磨明石　竹賀
山海萬里遠征の士の月偲ぶ　一滴
笛の譜を蹉に調べて居待月　白神

第十
月澄んで大空水の如くなり　色葉
運者云ふ唯何となく水の如くなるを

第九
借一人つくねんとして庵の月　柳仙
運者云ふ爪操る念珠の水晶よりも滴たる月のひと雫が、冷やり身に泌み……
……大悟徹底!!

第八
座の更けて尻の冷つく月見哉　一滴
運者云ふ山鳥の尾の長々し夜に詩歌を賣る風雅狼のそれ……

外事一束

△加奈陀　自由黨失脚し保守黨新內閣成る總理は既報の如くエルホーデン氏也
△土耳其　は殆ど其唯一の武器たる伊人退去命令獨乙の干渉の爲撤回せりと
△伊土　戰爭は土の海軍なき爲寂寞たり伊の大軍のトリポリ活動を翹望せり
△トリポリ　內地に進入したる伊の斥候隊土亞聯合軍に擊退さる唯一捷報乎
△武昌　革命黨蜂起し總督軍艦にて逃走し宣教師及外人寺院に隱れ外國艦勇
△兵漢口を警衛し總督衙門及布政使衙門燒棄し第八鎭統制暗殺の報有り電
△信局破壞され詳報不明なるも城內激戰あり兵營三ヶ所燒失し銃聲激しと
△資政院成立し議場混亂なく議員分屬及部長選擧互選平穩の中に了れりと
△清暦八月一日より實施されたる防穀令は農作平年なる爲廢止せりと報ず

文苑

●折にふれて　松琴生

○栗咲めば通草たわて中秋のたのしみがたるうぶすなの森
○神棚に初穗そなへて家內どちにごり酒くみ豐年祝ふ
○秋の夜を更けてかへりし我を待つつまのねもわに心などみぬ
○よしなれし藤の長椅子初秋の冷をれば凶ぬ窓の朝風
○獨りみをはこりし友のめづらしくさびしさかこつ初秋の宵

梁川庄八

小金井蘆洲演

第十一回

馬「偉ろう御成んなさいましたナ……瓜の蔓に茄子は果らぬと云ふが……、御父上樣に似爲らせて瓜なら割らで其儘おや」庄「ウム其方は亡父の戰場進發の供をしたと云事ちやが、定めて當時の事は審かに覺へてであろう、今日追纂のために父上が戰場の働きを物語つてくれ、百萬遍の經よりも其方が却て御悦びであろう」馬「ハイ〳〵夫れは最と易い事でござゑます、エー那の節は賦役の圍に當りましたのが、俺と喜平次の二人、喜平次は此草履取俺は此旗持で御供を致しれ戰に御進發になつたのは今から恰度八年前此節が斯く十四の時、慶長五年九月の十五日から始まつた戰るで、手始めに白石の城を仙臺の御大將樣が攻めなすつて悉皆攻落して終ひ、夫から續いて福島の城を攻落し、其圍には砦が左樣さなア七つもござへましたが、夫もみんな攻落したい勇ましかつたなわ、上杉の同勢は皆さんざんになつて逃げましてねゑ、御大將は福島を根城とさつしやりまして是から二本松から白河を攻めて會津へ攻込まうと云ふんで、彼是人數は八千人許に成りましたな……、すると敵の大將上杉景勝ちう人が三萬五千人と云大軍で會津から繰出して參りましてな、今迄の勢とは打て變つて、仙臺の御大將始じめ一統の衆が信夫郡松川で大戰かひになりましたが、何にしろ敵は大軍味方は小勢だし、夫に毎日の戰ひに疲れて居る者、大軍のために取圍れて味方は敗軍さよ、始め勝は藥勝だ……、其時に御先代樣が口惜がつて仰やつたには、今仙臺の御大將一人を助け申のは最より安い事だけんど、夫ではいかねへ今夜の宵闇を幸ひに敵の先手を斬崩してムラ〳〵掛に敵の本陣へ斬込んで突崩せば敵は引揚るから、味方は助かるサア一同敵の本陣へ斬込んで潔ぎよく討死をして果、と云ふれ時は一人も否な顏をする者もなかつたのは日頃からの調導が宜いからだな、俺に向いなつて我は何と云年は何才になる在所には息も孫もあるべゑ我一人居なく共差支はねへから、是をやるから戰場を逃げて在所へ歸れど一摑みの金を下すつた時は、俺は難有涙にくれたが御供をしても御役には立めゑが御邪魔にならなければ伴れて行て貰い申てい、喜平次は流れ弾に當て死んで運よく薄底兵も負はねへ俺だ御先途を見屆け一緒に討死をしてゑからと云と、御先代樣は俺が手を斯う取なすつて、能く云てくれた旗を敵に取られるな竿を捨て旗を腹に搦付て側を離れるな、と御差圖下すつて鎗で大地を敲いて九月廿三日の日の暮方から、上下二百人で敵の先手へ斬込ました時の御先代樣の御働きと云者は全で鎌で草でも薙るやうだつた、先手五楯の陣を斬拔けて小高い所へ引揚げた時は日も暮れて御先代樣は宛然紅を浴びたやうで、垂る血の刀を杖について敵の本陣を睨みなすつた姿摩利支天樣のやふだつた、味方は大分討たれて半分計りになつた、目差す敵は彼れだムラ〳〵掛に斬込んで、花々敷討死をするだ、馬平達者で居よ」と側を離れるなと其忙がしい中でも働つて下さる有難さ、夫から本陣へ斬込んだが目醒ましい働きで斬た〳〵斬く內に死人の山だ、俄に敵は騷ぎ出した周章て引揚げたんだが、其時本陣に竹に雀の紋の付た旗六本置去りに成て居たのを分捕をした、敵の奴等が皆引揚げたから、討洩された味方は漸つと五六十人で夜の引明けに福島の城まで引揚げて來た時には、仙臺の御大將樣は城の中に居さつしやる、濱端に周防樣が陣を張て居た、所へ御先代樣が行かしつて一伍一什の話として旗を渡しなすつた……」と是迄は腕を振り胸を敲いて勇ましく氣に長物語を續け居ましたが、俄に聲を濕るませ　馬「是迄は宜いが是から先は話したくねへな、俺は腹が立て業が煮えて胸が痞へて口が利けねへ……、此處までゝ止しに仕ませう」庄「ア、コレ馬平……父の戰場の働き目前に見る如く愉快に聞て居たに、ナゼ止める話してくれ」馬「ヘイ〳〵夫丈の手柄功名を顯はしなすつた御方樣が……其功名も何にもならねへで七年前の今月今日腹を斬て死になさつたは……」と云さして懷舊の涙に咽びますのを傍に居た庄屋善兵衛が　善「馬平爺や先づ其邊にして置くが宜い」と止める、庄「甚うしたのだ話をしてくれ」馬「ハイ……若旦那樣のれ爲だから話しませう」と更に言葉を更めました



京城新報

故伊公二週年祭 謹みて官民諸氏に白す

明治の元勳、憲政創始の大功勞者にして、且つ朝鮮併合準備の大任を全ふし後任者をして併合を行ふに易からしめたる、故伊藤博文公が、無殘や哈爾賓に於て兇徒の爲めに狙擊せられ、終に薨去を遂げ、國民の上下をして悲痛哀悼の涙を絞らせし明治四十二年の十月二十六日も、指折數ふれば早や二た歲の昔とはなりぬ。嗚呼十月二十六日、これ我帝國の偉人伊藤公が人生の最大悲慘事に遭ひ物故せられし日として、國民の終世忘るゝこと能はざるの日なり。殊に、朝鮮在住民が嬉々として其業に安んじ、益々進展の途に在るも、要するに故公の賜なるを顧はゞ、在鮮民は公の永眠されし當日は一層の盛儀を盡し、以て故公の靈に對して敬悼の意を表すると共に故公の偉業を深く感銘せずんばあらざるなり。

抑も故伊藤公が、維新の元勳として陛下の御親任渥く、內外の重望を一身に荷ひ、國家の爲め蹇々匪躬の節を全ふしたる偉蹟と偉勳は、吾人の茲に喋々する迄もなく、世人の既に知る所なり、而して故公が第一世統監として任に朝鮮に臨まれし秋や如何。日露大戰役の後に際し、朝鮮の上下其緒に安んぜず、文物の衰微は殆んど其極に達し制度典章は一として頹廢せざるはなく從つて宮中府中の別は壞たれ、政權はこれ朋黨の爭奪に委し、凡て國家としての秩序立たざるは勿論、國民の生命財產は官吏の誅求苛斂に因て全く保護せられず、與に紛糾亂麻の如かりしなり。此中に來つて伊公は泰然として施政の大策を樹て、鋭意難局に處し奮勵事に當り、先づ宮府の別を明らかにし官制を改革し、法律を制定し、紊亂せる財政を整理し、着々効を收め、故公の在任三年餘の間に於て、秩序整然として立ち、諸般の弊竇は芟除せられ、鮮民始めて我帝國の誠意を理解し、我保護政治を注視せし各列國も我の施爲を賞贊するに至れり。況んや李王孫を我國に伴ひ、輔育教養至らざるなく、鮮民同化の範を示せる等、故公が如此朝鮮の爲めに心血を濺ぎしことのなかりせば。焉んぞ併合の大事を至易の間に行ふことを得んや。吾人が朝鮮の今日あるを故公の賜となすも決して過稱にあらざるなり。故に、吾人は故公の偉業に胚胎せし併合の大事をば、獨り當事者の功に止めんとするは、即ち本末を辨せざる者として之を排斥するに躊躇せざるなり。然るに世には故人の功を認めながら、死者口なしとして、故人に對する尊敬を缺く者あり。移り易きは人心とは言ひながら、餘りに人情の輕薄なるには唏噓せざるを得ず。想ふに、一昨年故公薨去後間もなく、曾禰第二世統監主となり追弔祭の嚴肅に執行せられしに拘はらず、昨年故公の一週年祭か當地に行はれざりしは故公に敬意を缺きたるに非ずして、併合の擧あり凡て多端の爲なりしならむも。本年は然らず總督政治其緒に就けるのみならず。故公が最終の理想として不幸之を見るを得ざりし併合も一週年を經過せしを以て。朝鮮總督始め在鮮の官民はいよいよ來る二十六日の故公薨去二週年の當日、莊嚴なる祭典を擧行し、併合後の政績を告白し、故公の英魂毅魄を慰せざる可からず。在鮮官民諸氏よ、二十六日は近きに迫れり今にして其準備をなすも敢て早しとせず。諸氏乃れ故公の靈に對して盡誠の意を表するは此機を措てあらざる也。

北京特電

▲**端方捕虜となる** 四川省暴徒討伐の爲め成都方面に在りし端方氏は腹背に敵を受け遂に革命軍の爲めに捕虜となりたりとの情報あり

▲**黃興の動靜** 革命黨の首領黃興は先日來四川に在りしも漢口に來り軍務を指揮す

▲**革命黨と露領事** 露國漢口總領事は總督に援助を與へたる爲め革命黨員等は之を恨み居れり其他の外人は中立を守れり

▲**南京陷落の報** 革命軍は南京を占領したりと

▲**廣東にも革命軍** 廣東にも革命黨蜂起し潮州は既に陷落したり

▲**南京の武庫占領** 革命軍は南京の武庫を占領したり

▲**北京人心恟々** 革命軍の勢力愈々強烈にして保定府陷落後一擧にして北京を衝かん形勢あり北京の人心恟々たり

▲**湖北四川の聯絡** 湖北武官の組織せる革命軍は四川の革命軍と確實に聯絡を取り相呼應して北京政府を轉覆せんとす

▲**官軍叛旗を飜へす** 吳祿禎の引率せる革命黨討伐軍は中道より叛旗を飜し革命軍に投せん恐あり

▲**岳州回復見込なし** 重慶、長沙岳州は革命軍の爲めに確實に占領され最早や官軍の手にては回收の見込なし

▲**革命軍の一般方略** 叛軍の一般方略は北京に進擊する前揚子江に沿ひ南に下り上海附近に根據地を得て海外との交通を確保せんとする者の如し而して北京に駐屯する官兵來るを待て其虛に乘じ事を擧げんとする者の如し目下現に北京には五千餘の革命黨あり兵器を藏して機會の到るを待ちつゝありと

▲**保定府陷落し近し** 保定の陷落は旦夕に迫まりつゝあり

▲**四川成都陷落** 四川成都は終に陷落したり

▲**革命記事制限** 北京の支那新聞は革命亂に關する記事を制限せられたり

▲**荊州徽州陷落** 江蘇の安慶、湖北の荊州、徽州は皆革命軍に占領せられたり

▲**京漢鐵道破壞** 京漢鐵橋は革命軍の爲めに破壞せられ官軍の輸送は不可能なり

▲**陸相討伐に向ふ** 清國陸軍大臣蔭昌は十五日を以て北京出發革命軍討伐の爲の漢口に急行せり

▲**端方身を以て免る** 四川にて腹背に敵を受け捕虜となりし征匪總督端方は敵の圍みを破り僅かに身を以てマンケンより江を下りて重慶に到着潛伏し居れり

▲**北京天津戒嚴令** 北京は十三日天津は十四日何れも正式に戒嚴令を布かれたり

▲**北清財界大混亂** 北京及天津地方に於ける財界は大混亂しつゝあり

▲**廣東都市陷落** 公報に依れば南京廣東の羌州蕪湖は革命軍に占領せられたり各主要都陷落するは即ち官軍が叛旗を飜し革命軍となりたるに依るものなり

▲**革命囚徒釋放** 漢口監獄囚人の多くは革命黨員にして今回是を解放したとは革命軍に採りて非常に勢力を與へたるものなり

▲**瑞徵の自殺** 湖北總督を革職されたる瑞徵は自殺を圖れりと傳へらる

▲**革命軍の總數と軍備** 革命軍の總數は軍兵八千民兵一萬五千其の他を併せ三萬にて尙增加の模樣あり彼等は軍備を調へ北京に向つて進擊せんとしつゝあり

▲**金融界の恐慌と非難** 北京金融界は大恐慌を來し內外の銀行は取付盛んなるが人民は萬一を慮りて天津に避難するもの多し

東京電報

▲**外相の親任式** 十六日宮中に於ける子爵內田康哉氏に對し任外務大臣の親任式行はれ林遞相の外相兼任を免せられたり

▲**首相外相密議** 西園寺首相は外相と今朝來對清問題に關し官邸に密議を凝しつゝあり

▲**驅逐艦急派** 南清革命軍の勢益々猖獗を極めつゝあるを以て旅順より軍艦龍田橫須賀より驅逐艦卷雲を急行せしむる事に決したり

雜報

●**國境の共同稅關** 安奉線開通後に於ける國境の稅關は日清兩國の協定愈々成立し安奉線にて兩國共同の稅關を設置し貨物の檢查を行ふ筈に決定したる由にて我國よりの稅關は新義州稅關の派出所となり共同檢查をなす筈なりと

●**京元線の一部開通** 既報の如く鐵道局に於ては愈々十五日より龍山議政府間十九哩間餘の一般運輸の開業を爲すに至れり當日は折柄日曜日に相當したると迎京龍間の官民は秋郊の散策旁杖を同地に曳きたるもの多く殊に寺內總督も沿線の工事を視察せん爲め午前八時南大門發議政府に至りて內祝の式場に參加したれば議政府驛は中々の賑を呈し鐵道局の烟火打上げ等あり同局にては大屋長官の工事進行に關する報告及寺內總督の談話等あり何れも折詰を開きて午餐を喫し茲に其內祝宴を終り總督は臨時滊車にて歸京せり

●**道路擴張開鑿稟請** 十月五日を以て古城民長より道路擴張及開鑿之義に付寺內總督に提出せし稟請書は左の如し

都市に於ける市區の劃定道路の改修新設は海口に於ける港灣修築の急要と同一なるは何人も是認せらるゝ義と存候窃かに現今の京城(龍山をも含む)を見るに東西南大門と南大門鐘路間、南大門黃土峴間等の通路を除けば殆んど市街道路の形容を存するもの甚だ少く而も目下人口三十萬を有し日々增殖の勢底止する處を知らざるの觀ある朝鮮唯一の首都にして上下共に其の發展を企圖するの時に當り各個所の區劃道路の改修新設の計畫は一日も忽諸に附すべからざる義と被思料候因て本年三月二日附民一第九三六號を以て居留民會の決議に依り京城市區改正の儀に付稟申致したる所以に有之候然るに貴府に於ては既に大体の御計畫有之哉の趣にて目下南大門と鐵道驛間の道路取擴に着手せられ黃金町光熙門間の擴張工事も亦御決定相成たるのみならず本町通りの改修も亦御調查中に屬するやに傳聞致候に付ては當民團人民は貴府の施設其の宜を得たるを謳歌し一日も速かに御實行あらんことを翹望罷在候次第なれば我京城居留民會に於ては更に民意の在る處を表白し之れが徹底を期せんが爲め多數の改修擴張を要すべき箇所の中急務中の急務に屬する道路の撰擇及之れが設計に對する希望として左記の通り決議致候條何卒民意御採納の上適宜御詮議相成候樣希望の至に不堪候右居留民會の決議に依り謹で請願仕候也

記

△第一 本町一丁目より南大門通りに達する道路は其の現狀頗る狹隘に失し人車の交通に不便少なからざるのみならず寧ろ危險を感ずる極めて切なるを以て該道路の改修を必要とす之に關する希望設計の要領左の如し

(一) 京城府前東角より南大門通りに至る現在道路と京城居留民團役所前西角より南大門通りに至る現在道路との中間に存する建物一切を取除く事

(二) 前記場所に車馬道一線、人道二線を設け兼て小公園たる設備を爲し且つ火災等の避難地たるに適せしむる事

(三) 右地所家屋買收及土工等一切の經費約十二萬圓を要する見込

△第二 本町通りの全線は交通頻繁にして之れが擴張は一日も緩ふすべからざるものに付之れに關する希望設計の要領左の如し

(一) 本町一丁目より光熙門に至る現在の道路幅を六間以上に取擴め工費の許す範圍に於て屈曲を少なからしむる樣施工する事(此の延長約一千五百間の見込)

(二) 右地所家屋買收及土工等一切の經費約六十三萬〇八百七十圓を要する見込

△第三 本町通りの擴張と同時に裏通りなる南山町四丁目より旭町米倉町を經て南大門通りに達する便宜なる人道を設け並に大和町方面の連絡を保たしむるは所謂唇齒輔車の關係あるを以て急要なるものと認め之れが改修開鑿に關する希望設計の要領左の如し

(一) 南山町四丁目より旭町、米倉町を經て南大門通りに達する人道は幅二間とし延長約四百間の見込

(二) 右地所家屋買收及土工等の經費約四萬五千三百圓を要する見込

△第四 漢江の長流は我京城に取りて至重の寶庫なり之れが利用の道を便ならしむるは急要事たらずとせず故に舊龍山河岸より麻浦渡船場に至る沿岸の岩壁を切取り三湖方面に通ずる新道を開鑿し京城との運輸連絡を容易ならしめ人車の往來に便せんとす之れに關する希望設計の要領左の如し

(一) 舊龍山河岸より麻浦渡船場に至る漢江沿岸の岩壁を掘鑿し凡そ四間幅の道路を新設する事

(二) 右掘鑿、護岸石垣、盛土等の工費及土地家屋買收費一切の經費約參萬〇參百圓を要する見込

△第五 以上第一項より第四項の實行に要する經費概算は總計金八十二万四千四百七十圓の巨額に相成候然るに當民團目下の財政狀態に照らし全額の負擔は到底堪ふべきものにあらず必らずや其の大部分は國庫の補給を仰がされは事業の完成を期し難く候條少なくとも右總額三分の二以上御補給の御詮議伏して請願仕候次第に有之候

神嘗祭

●**商工調查會の發會式** 當地商工調查會發會式は愈々十七日午後一時より同會議所樓上に開催

●**釋宗演師と總督** 宗演老師今回巡錫の用務は鮮滿兩地に於ける臨濟派布敎狀況視察にある由なるが聞くところに因れば寺內總督には老師一行當地着の上は一場の講話を請ふべく而して右講話に要する會場の設備は京城日報社擔當して南大門通り廣通館と決定十七日午後六時開講すべしと尙老師には當地用務終了後直ちに安東縣に於ける臨濟寺へ向はるべしとの事なり

●**總督領事團招待** 寺內總督は十七日午後七時より各國の領事を官邸に招待し晩餐會を催す筈なり

●**米國紳士の入京** 紐育日米協會々長ラッセル同夫人雜誌インデペンデント社長ホルト同夫人の一行は十五日夜入京ソンタクホテルに投宿したるが爾三日京城に滯留して各所の見物を爲し安東縣より北京又は大連を經て來る天長節直に日本へ引還す筈なり

●**代用米問題陳情** 過般內地全國取引所聯合會に於て農商務省の內示に係る朝鮮米を代用米として採用の件否決されたるにより朝鮮會議所聯合會は右決議不當なるを憤慨し爾來各地の情況に就調查中なりしが愈々役員會の決議を經て左の如き陳情書を寺內總督に提出したり

取引所定期市場受渡代用米中に朝鮮米を採用せんことを示したる主務者の意見に對する內地取引所聯合會の決議は頗る不當の決定にして其の理由なきものと認むる因つて此の機會を過せず是非採用せしめられ度農商務省に交涉せられんことを切望す

▽理由△ 米穀は朝鮮に於ける唯一キ要產にして夙に輸移出貿易品中の首位を占め其の盛衰は直に以て相互の移出入取引及生產工業の發展に至大の關係を有すとは更らに喋々を要せず之を以て當聯合會は去る四十一年既に取引所代用米に朝鮮米を採用せしむるの利益なるを認め決議により大浦農商務大臣に請願し同時に主要取引所に向け希望を開陳せり爾來當業者は幾多の方法により品及質調製方法改善の途を講じたる結果今や著しく改良の實を擧ぐると共に大に輸移出額を增進し之を內地中等の米質に比するも敢て遜色なく其の滋味は寧ろ優れるものなるを認む是れ本年四月兵庫に會したる現任米品評會審查の結果朝鮮米は其米質及調製方法に於て一等米たる兵庫、岡山、山口、群馬、埼玉縣の產米に匹敵し一層品質の善良なるを確實に證明せられたるは普く當業者の熟知する處なり由是觀之朝鮮米を內地取引所の定期代用米と爲すの資格なき理由を認むる能はず況んや米價暴騰の爲め一般に困難を感じ居るの今日に於てをや朝鮮米を內地取引所代用米に採用せらるゝに於ては米價の調節と圓滑ならしめ同時に朝鮮米の聲價を高め其開發上偉大の效果あるを信ず右前年の決議に基き別紙參考書相添此段更に陳情候也

●**總督米國紳士招待** 別項記載の如く日米協會々長ラッセル氏の一行は昨十五日夜入京したるに付寺內總督は一行の爲め十七日午餐會を催す筈也

●**釋宗演師の入京** 前鎌倉圓覺寺管長釋宗演師は十六日南大門着の列車にて入京し三島鮮銀理事宅に投せられたり

●**干蝦製造傳習開始** 京畿道廳にては管內の各沿岸にて蝦の漁獲盛んなるも從來單に漁人自己の食用に供するのみにて利益少なきを以て今回清國向きの輸出干蝦を製造するの案を立て近日より其製造傳習に從事すべしと云ふ

●**林東拓理事の出張** 東拓會社理事林市藏氏は十五日砂利院へ出張せり

●**關野博士の入京** 同博士一行は平壤より十五日入京二三日滯在の上慶州方面に出發する筈

●**鈴木局長の開城行** 鈴木司稅局長は十五日開城に赴き人參收納及製造の狀況を視察し即日歸京したり

●**荻田書記官の歸鄉** 總督府の荻田書記官は十六日午前南大門驛發故夫人の遺骨を携へ故鄉に歸省したりと云ふ

●**藥師川隊長歸任** 開城所近の警備及事務視察として出張中の藥師川憲兵隊長は十六日午後一時歸任したり

●**中村課長の歸任** 南鮮各地の農作狀況視察の爲め出張中なりし中村農務課長は十五日午後歸任したり

●**外國語學校證書授與式** 官立京城外國語學校にては十八日午後二時より臨時卒業證書授與式擧行す

●**高女日出校運動會** 民團立高等女學校及び日出尋常高等小學校聯合運動會は既報の如く十四日午前九時より奬忠壇に於て開催せられしが當日は好天氣の事とて來賓は山縣政務總監檜垣道長官石塚取調局長其他官吏公吏數百名臨席參觀人八千餘人非常なる盛況を呈したり

●**善隣商業學校運動會** 善隣學校本科及夜學部專習科は十七日午前八時同校運動場に於て秋季運動會を催す筈

●**平壤小學生の修學旅行** 平壤民團立尋常高等小學校生徒男女三十五名は修學旅行として敎員に引率せられ十五日仁川に到着原金旅館に一泊十六日仁川市中觀察仁川小學校にては茶菓の饗應及紀念書を寄贈し同日午後龍山に來着せり

●**日本電報發行停止** 一日本電報通信京城支局十六日發行電報通信は掲載の記事其筋の忌諱に觸れ同日發行停止を命ぜらる

●**工業傳習所製作品陳列** 朝鮮總督府工業傳習所にては二十二日(日曜日)午前十時より同所作業の狀態を一般に觀覽せしめ併せて希望者に販賣すといふ

▲**京城手形交換高**▼

	枚數	金高
十月十六日	五六六	一二〇、五五七、六五〇

▲**治外法權**▼

月日の經過のは早いもの、故伊藤公が、万里平原南滿洲、風光濶遠一天秋、當年戰迹留餘憤、更使行人牽暗愁との絶筆を殘してハルビンの露と消ぬられたのも來る二十六日で滿二週年だ▲昨一週年の當日には、當地には、ドー云ふ譯か公の一週年祭が無かつた、併し如斯は決して我官民が故公の大恩に酬ゆる所以でない、幸ひ上に聖賢の道を祖述する寺內總督あり來る二十六日には、日鮮人合同で、二周年祭を盛んに擧げたいものだ▲シャム皇帝の戴冠式へ日置默仙禪師其他が參列するとの事だか由來引込んで許り居た佛敎僧侶が、國際的に活動するようになつたのは結構の事だ▲禪師と云へば釋宗演禪師が近日當地へ來るとの事ソシて講話をされるとの事だが、有緣の有志者は大に得るところが有るであらう▲我民會の決議で古城民長から出した市街道路擴張請願は目下其筋で詮議中との事だ、但し洩れ聞くところに因れば總督には請願に贊成との事、すれば遠からず請願採納の指令が下がることであらう▲黃金町竹園町の街路取擴げに關し、當局者は土地の買上及び立退に付き、決して不法のヤリ方はして居ないと云ふが、ソレは嘘だ、見玉へ現在土木課の所置に泣かされて居る日鮮人が幾らもあるではないか▲當局者は云はん、出來るだけ安く買上げ且つ立退かしむるは政府の利益なりと、併し政府は如何に公共の爲とは云ひ、小弱な地主家主の利益を犧牲にしろとは望まぬ、內務部長官たるもの土木課員を戒飭して可なりだ。



チャンピオン傳(七)

料亭「はつね」の主人

相原七三郎君

料亭「はつね」は南山町一丁目俗稱食傷新道の角に彼の松葉亭と相對つて居るのだ、元梅翠樓の立料理人であつたが彼食道樂の開業と同時に實際上の經營者となつて其一流の鹽梅に食通を唸らせて居た、何にしろ廉價くて美味くて手輕だと云ふので其繁昌と云ふものは夥しいもので增築した上にも增築をせねばなるまいと云ふ程の大景氣に出資者は慾が出て儲けた上にも儲けたいと云ふので實際上經營者たりし七三郎君と意見が合はない其所で七三郎君は身を退いて現の「はつね」を經營して冴えた腕に其**江戸前を發揮**して居る、生れは東京下谷區根岸御行の松の片畔り初音の里である、其家號を「はつね」と呼ぶのは即ち此故である、彼れが料理人としての腕前は世既に定評ありであるが其長唄の隱藝——イヤ表藝——に至つては一部人士を除けば汎く知れ渡つて居らぬが此七三郎君こそは**當地長唄界**に於けるチャンピオンで、彼れの手ホドキは十一歲の時**杵屋小三郎**に依つて稽古して居たが都合あつて**杵屋榮造**に弟子入して五年間之れに就いて學んだが又都合あつて**勝太郎**に就いて七年間**都合十五年間**と云ふもの一生懸命に學んだのである、元より好きで習つたのだから進歩も非常に早かつたのである、詩とか和歌とかなら此位巧手いと云ふことが紙上で御披露も出來るが唄や三味線などは夫れが出來ないのが遺憾だが兎角京城の藝妓中三太を他にしては七三郎君の趾の勤まる妓はない、元來長唄には杵屋即ち祖六左衛門から芳村、岡安、松永、吉住、住田と別れて芳村岡安とは歌唄ひの家柄で松永と吉住とは三味線、住田が即ち笛の家元と斯うなつて居るのだ相だ、七三郎君は芳村派に屬して現に芳村の家元伊三郎君より**芳村伊之助の名を貰**つて居る堂々たる歌唄ひである、最も得意の唄は吉原雀、賤機帶等である、長唄に掛けたら恐らく當京城斗りでなく**朝鮮切つてのチャンピオン**であらう、七三郎君曰く「菊家の文之助さん所の菊枝さんが今の調子で行けば私なぞの趾を顧つて押しも押されもせぬ如に成るのも近日の事であらう、樂しみにして居ります」と(終)

●德富氏官舍借領

▽其筋にては知ざるか

當地西大門外盤松坊鍮洞所在の朝鮮總督府の一官舍は現に京城日報監督德富猪一郎氏の住宅に充用されあるが如何に御用新聞の監督なればとて一私人たる德富氏が官舍住居をなすこと有る可き事柄ならずと本紙記者は十六日總督府會計局經理課に就き其眞相を聞糺せしに對し入江課長の曰く「總督府官舍の總ては當經理課に於て管理し居る事は事實なるも尋ねの德富猪一郎なる一私人に官舍を給し又は貸與せし事なし」と記者は重ねて「然らば德富氏は總督府の官吏又は囑託員には非ずや」入江課長曰く「官吏に非ざることは明なるも囑託員たるや否やを知らず、假りに囑託員だとするも囑託員には官舍又は舍宅料を給する事なし」と答へたり、茲に於て記者は該官舍が元憲兵隊にて所管せし如く記憶せるを以て辭して憲兵司令部經理部某氏に就き糺したるに「御尋ねの官舍は當隊には一切關係御座いません」と、以上は記者が今日迄に知り得し處なるが更らに聞く所に依れば同氏は右官舍は**寺内總督より直接に借受**けたるものなりと昵近者に語り居れりと、聞く所にして誤りなからんか氏は寺内總督を誣ゆる者なり何んとなれば**嚴正公明**身を處し、部下に莅むに**一點私情無**き寺内總督が苟も一私人たる德富氏にみ事を私して官舍を貸與する理あらんや、氏は言を總督に藉りて**官有建物**を借領し居るものと云ふべし、非か

●稅關書記の溺死

▽泥醉の上墜落して

一昨日午前六時十分仁川花町一丁目梶山由藏が海岸邊を散歩し居たる際時恰も干潮の際なりしに落町四丁目濟物浦製鹽所前機構の根方に頭部を挾み仰向に成て變死し居る官服着用の者あるを發見し直ちに其筋に急報したるより仁川警察署よりは石村部長門前巡査久木田警士等出張し取調へたる處同人は仁川多所面松林里十統七戸居住玄根(二五)と判明したり同人は相當資産を有するものにて數年前より仁川稅關書記として會計課勤務なりしが平素大酒飲みにて去十四日午後五時頃仁川仲町料理店れかめに登樓數々の遊興を爲し尚同僚たる花町一丁目井出貞吉方へ至り又もや飲酒泥醉し同八時頃歸途に就きたるものにて海岸通行中泥醉の爲め誤つて海中に墜落し遂に一命を失ふに至りしならんと稅關よりは監吏杉山寅一出張立會の上檢視を遂げ死體は一ト先杉山監吏引取り家人に引渡したり

●鮮人病者の斃死

▽慈惠醫院の擴張を要す

長谷川町一丁目廣江商會前に二十五歲位の鮮人變死ありたるより南部署員警察醫と共に檢視せしが肺結核患者にして治療出來ず營養不良の爲め死亡したる者なりと

●元漢城新報社長拘留

▽重大犯罪の嫌疑あり

田村萬之助は元漢城新報社長として韓字新聞經營中資金に困難を生じて他に讓り小栗榮吉が日本新聞京城支局を經營すると同時に支局員に雇はれしが小栗が詐欺取財犯にて其筋に拘引せられし以來一定の職業を有せざりしが此頃居住規則違反として拘留二十日に即決され其の實某重罪犯の嫌疑にて犯罪搜查中なるが有力なる證據ある由也と

●龍山の强盜縛に就く

▽巡査補の宅を襲ひし

本月七日夜龍山警察署詰巡査補吳泳洙の自宅へ强盜四人侵入衣類雜品數十點强取逃走せし事件ありしより龍山警察署にては之れが偵察に怠らざりしが其結果該犯人は京畿道廣州郡砂川羅門元(二二)なる事判明十五日午前七時京城本町三丁目にて擔軍の中にありし處を龍山署の酒本刑事に捕縛せられたり盜品は西大門分署前京口典當舖及中部帽谷典當舖へ妙順(一二)なるものゝ名義にて入質しあり發見せられたりと他の三名は未だ縛に就かずと因に羅門元は是れ迄數十回强竊盜を犯せし事ある不逞の徒なりと

●米駒新町を去る

新町遊廓玉家のダイナマイト娼妓米駒は某會社員今瀬某に落籍され廢業せしが前借金に付き樓主に於て金一圓四十錢の計算ありしとて警察に持ち出し無事解決せしが監獄に居る高田が知つたら恨むであらう

●飲食店に藝妓

仁川海岸町四丁目飲食店下梅次郎(四七)方にて十五日午前九時半頃稻田組土工數名飲酒し醉興に乘じ朝日樓の藝妓勇を招き三味線太鼓で大騷ぎをなし居たるを折柄巡回中の中島巡査が聞付け梅次郎を營業違反として告發せり

●**酒に飲まれて警察へ** 藤富國牛乳店雇人福井縣平民吉田芳太郎(三〇)は十四日夜永樂町二丁目飲食店秋田チヤ方にて飲食代七圓十錢が支拂へず警察に突き出され雇主より支拂ひ貰ひ說諭放免

●**日人鮮人を毆ふ** 本町五丁目岸川菓子店雇人福岡縣平民松崎芳太郎(三二)は十五日午後八時頃新町遊廓喜見中鮮國人娼妓ヲーパーに對し暴言を吐き硝子を打ち破りて警察に突き出され拘留五日に即決

●**觀音講と說教** 花園町曹洞宗日韓禪寺にては十七日午後一時より月並觀音講の說教並に禪學道話等ありと

●**電車人を突飛ばす** 擔軍池德操(二八)は南大門通り三丁目に於て電車に突き飛されて負傷したり

●**秋風尻に祟あり** 中部廟洞居住尹基永(二一)趙成起(三二)全元三(三二)は賭博の現場を北部署に檢擧され笞刑各八十に

●演藝だより

▲壽座 後藤良介一座十七、十八兩日の狂言は廣津柳浪子作「松山颪」全十二場にして重なる配役は左の如し 松山國重(内田)松山夫人久子(松下)教員金輪(藤野)金輪妻安子(藤田)老僕太作(深津)職工長伊十松(雪岡)太作娘お花(北子)久子弟千代太郎、校長西岡明(後藤)

▲浪花館 ジョンペール一座にて番組頗る多趣多樣にて面白きこと限りなし十七日の番組左の如し 猪晃(枝輔)道具屋(圓松)太神樂(福樂)子ほめ(圓三)高砂や(小ゑん)踊古屋(芝鶴)娘奇術(喜代子)れどく\の太助(福圓)音曲說(ジョンペール)

▲御成座 片岡鶴之助一座の浪花節芝居にて極めて好評なりと

●狂言 正直大名(下)

吳山

シテ 大名 / 太郎冠者 / アト 山伏

アト登場「此は南山の麓に住む山伏でムる、今日は頼うだ方の御歸りじや程に、早速馳付、着到の隨一に入り、御褒美にありつかうと存ずる、イヤ是は〳〵、頼うだ方樣の御歸り、御慶な申上ます、さて御留守中な、思ひきつて働いて置きまして、南山の樣な大きな提灯を灯いて世上の奴等をてらいて照らしてムりまする」大「さて〳〵愛い奴、褒美などとらせう、其方の親分もさき頃褒美にありついた、其方も忠義ぶりに依れば莫大な取らせう」山「有難山の時鳥でムりまする」「さて其方も此後とても忠義をつくす積りなら、一切身共の云ふ事は聽かずばなるまい」山「仲々」大「さらば、犬の眞似を致して見よ」山「ワン〳〵〳〵」大「ハヽヽヽうちは人間より犬に近い樣じや、然かしまた人眞似も入用じや、うちは猿になり得まい」山「是は仰せでムりますが、併し拙者、人眞似ならばナの得意でムります」大「それは一段と祝着じや、さて美な何をとらせう」山「金々、金なくて何の巳が文士かなと申します」大「やれ情ない山伏かな、さらば褒美は思ふまゝつかわす程に、其方も一身を身共に呉れずば相成らぬぞ」山「マヽ暫く御待ち下され、拙者の命な頼うだ方に差上げるのでムりまするか」大「元よりじや」山「命をあげれば死にまする」山「仲々」大「死ぬれば生命が無くなりますぞ」山「一定じや」山「やれ、をろろしやの〳〵、いか程御金をいたゞいても生命なければ何の甲斐なあろう、歸つて女房と談合致すでムろう」大「己れ憎い奴、失せをつた、斯樣な奴には褒美もなにも、やるまいぞ〳〵(一同退場)

●本願寺經營 行路病者收容所の三十分(四)

白面子

行路病者と云へば親、同胞の許に病み臥して居る病人よりは一層憐れな病者である、佛の御名に依りて此れを其手に救ひ取つた以上は常に及ぶ丈けの注意を拂ふて療病攝生の上に遺漏なからんことを期すべきは救護者本然の責務であらう、彼れは其の鼻が襲ふ異臭を說明して彼等が**副食物**として料理屋、魚屋などにて不用になつた魚骨や牛は**腐敗**に**近き殘肴**を**拾來つて**煮て居る夫れが放散する臭氣だと云ふ、僕の如き平民すら其臭氣だけさへ嗅ぐに堪ゆられない程のものを**病人の彼等は副食物**として喫ふのであると云ふ、僕は私に思ふた、此は收容所の隱した事でなく彼等患者の我儘から斯る不攝生なる、危險極る事をして居るのであらうが監督者は何故之れを制止し無いのであらうか、看護人は何故此を默過して居るのか、之れを默過するには默過せざる可らざる理由即ち收容所よりは別に副食物を供給しないのか、詳細に問ひ試みんと思つたが如何せん異臭に襲はれて胸ムカ〳〵する何分にも堪られないので後日を約して飛び出して來たツと吸呼を吐いた、目に入るものは堂々たる大官連の官舍である、彼の官舍に住ねる人は家賃に事を缺かぬ人だ、彼の一軒を此無辜の病者等の安息所に與へたらば如何樣にか其の**心靈の上に慰安**を與へる事であらうに冬が來ると云ふので官舍では襖や障子の張り替ら硝子戸の破損の箇所入れ換へ疊の表替ねに混雜して居る而して此の費用は悉く官の仕辨であつて毎年々々繰り返すのだ、此至れり盡せる**官人保護政策は恐**るべき**影響**を國民特に窮民の頭腦に印象しやしまいか、爲政者の深き注意と考慮とを促したい、なぞと柄にもない事に思ひ耽りながら本願寺門外に出ようとした杜端に「モシモシ」と背後から呼び掛ける人がある振返つて見ると行路病者の一人である「貴許は京城新報社の方でしよう」と云ふ、此には如何な僕も驚いた、如何に廣く顏を知られたればとて行路病者に迄知已を有して居ようとは思はなかつた、隱す程の事でも無いので「左樣です」と答ねると其人は嬉し相に「實は其行路病者全体の爲めにお願ひ申上げ度い事がありますので……私は近頃收容された者で能くは内容も存じませんが中には詳細を知つてる患者もありますから」と云ふ「フム、併し君は僕を新聞社の者と何うして知つてるか」と尋ねると彼れは裁判所の傍聽席で見たと云ふ成程夫れで事の次第は判つた、彼れは**涙を流**して**收容所の現在、患者**の**慘狀**等を述べ初めたが僕の心氣は恢復しない明日正午十二時を期して訪問する事にして漸く壽町の某家に引揚げて仁丹の十粒程を嚙み碎きて息を吐いた(つゞく)

●諸公債諸株券 現物賣買
迅速確實に御取扱可申候
京城本町三丁目
大阪野村德七代理店
田中友吉商店 電話九九三（ク）

澤庵漬込の時期は
愈々目前に迫れり
極上等一本撰十七貫詰新澤庵漬 壹挺
二千樽限り
特價金參圓卅錢にて
本月中漬込御注文に應ず
京城南大門通り一丁目
東京澤庵問屋
〔商標〕屋
電話九〇三番

最上山十印醬油
醸造元 千葉縣銚子町 岩崎重次郎
發賣元 京城本町壹丁目 三巴商會
電話七五三番

りん病患者に警告す
サンタールが麻病に特効ある事は今や満天下の認識する處となれり而かも本劑は初めより尨大誇張の廣告を爲さず爾來卓抜なる藥効に倚頼して一般の信用を博するに至れるは弊店の誇とする所なり
麻病の如き疾患は其藥効の見易きこと恰も外科醫手術の巧拙と均しく患者自身に於て直に輕快を自覺するを得るに由り容易に判斷することを得るを以て何人と雖も之を欺くに由なし而して市上麻病の特効藥と稱するもの枚擧に遑あらずと雖も獨りサンタールが其名聲を擅にする所以は其優越なる藥効が疑多淋病藥中一頭地を抜くものあるが爲めに外ならず
●本品は内服して一種の化學的變化を起し強度の防腐殺菌液となり尿と共に排泄せられ自然の洗滌法となるを以て淋病菌を其根底より驅逐するにはサンタールの外又良藥なし
登録商標 りん病 サンタール 複方 SANTAHL 大学病院方剤
急性用三週分三圓五十錢、輕症性痼疾用特製分一圓八十錢、慢性用二週分一圓二十五錢、一週分六十五錢、小包郵送
本家 京都市二條通木屋町 振替大阪三三四番 濱田北辰堂藥局
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城千六十八番

●うちみ●くじき●はねつぎ●
◎家傳◎かつけ◎胃腸病◎專門灸治
京城明治町一丁目百十
荒川摩擦術療院
電話二一五八七番（ヘ）

警務總監部御許可
檢查濟消毒牛乳
壹合 六錢五厘
設備の完全と清潔は本所の特色なり
あんぜんのちゝ そのまゝ のみてよし
京龍一手販賣所の牛乳は歐米式ゲルベル氏の器械にて檢查し合格したるもののみを歐米式消毒器にて消毒したるものなれば配達後再び煮沸に及ばず其まゝ飲みてよろし
▲新鮮生バタ
京城永樂町二丁目（電話一七一〇番）藤富國牛乳部
龍山漢江通二丁目（電話二〇二番） 藤富國牛乳部出張所
店主 藤富國太郎
顧問獸醫 肥塚正太
專務獸醫 松原重人
牧鑑手 堀井平太郎
京城本町六丁目（電話三〇八番） ⦅?⦆藤富國本店

奧様達が
寒くなったと御心配になる
綿類蒲團の準備は如才なく整って居ますから
吳服類は御心配になる…
人は半生寢て暮すのですから（蒲團）
確實なる値段にて本年は益々勉強致しました
確實に充分低廉に綿蒲團を御送付致します…
商品切手發賣
地方の御注文は迅速確實に御發送致し升
京城明治町一丁目（電話二六一番）
唐川吳服店

土地建物鑛山株券賣買
一擔保及確實なる債權に對し低歩貸金す
一漢江上流に在る赤松長五六尺もの二十萬本餘賣物あり
一市内適當の場所にて印刷業老舗機械附屬品全部讓り物あり
小林藤商店
京城明治町三丁目
電話六五五番
一京釜線太田驛附近の田畓（三四里以内の處）
一京仁線以西の田畓右買たし賣物あらば至急申込まれたし
一時局好の金銀銅鐵明礬山石綿山賣物あり

家庭用工業用 洗濯石鹼
アイラントマップ 浮石鹼
（其他）豚脂◎馬脂◎牛脂◎鯨油◎保革油●寄性曹達◎洋チャン◎椰子油●工業用諸油製造販賣
京城旭町二丁目 朝日石鹼製造所
電話九七三番 振替貯金番京城四〇〇番

●鍼科マッサージ科
主治 腦脊髓神經系統の諸病胃腸病子宮病脚氣、レウマチスうちみくじき其他
●電氣應用摩擦術
神奈川縣指定 橫濱盲人學校卒業
京城分教場主任
津門
京城南山町四丁目 本田方電話三四二

歐米各國自轉車各種
ヴイクター會社蓄音機械
銀製品各種
直輸入元
京城本町四丁目
時計寶石貴金屬諸材料
時計部專用電話（六六二）
寫眞部專用（一五九）
振替貯金口座二三壹
二丁目 織居自轉車部 電話（四八）
織居本店

東京建物株式會社派出所
資本金五百萬圓
本店東京市日本橋區吳服町
一土地建物抵當貸附
一月賦償却建物建築
京城旭町二丁目
電話一六八一番

元祖
食パン
菓子パンアンパン各種
總督府各官衙御用
陸軍御用
製造小賣商
京城太平町二丁目 相川兄弟商會（電話一一八九番）
釜山富平町一丁目 相川兄弟商會支店（電話二七六番）

ストーブを圍む時期は來れり!!
▲火附好く
▲熱量高く
▲永持する
▲無類格安の
撫順石炭
京城南大門外
林商會石炭部
電話七四三番
御注文有次第一叺にても速達可仕候!!

冬物新荷着
御披露
舶來雜貨商
三横商店
仁川宮町一丁目角
電話七〇六番

大學目藥
商標 上 目薬
●かれこれと迷ふこと勿れ完全無缺の大學目藥あり
大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●流行目●トラホーム●星目●かすみ目●血目●のぼせ目●疲目其他眼病一切に可驚奇効あり
發行所 大阪市北濱一丁目
元祖 ヘブリン丸 參天堂藥房

かぜねつの最良藥 大阪田口の ヘブリン丸
ハカリ印
Pilulae Antifebri 參天堂藥房謹製
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九〇四番 振替口座京城一〇六八番・千十六番

釀造元 仁川萬石町 高杉醬油釀造所 電話七六五番
最上醬油

懷中良藥
仁丹
●諸君いつも仁丹を召上れ
香味、芳香優絶の仁丹は●暑熱傷り●水當●船車の暈●眩暈●溜飲●頭痛●腹痛●吐瀉●胃腸の●食傷●口臭●酒毒●等に
……最もよくきく靈藥
朝鮮代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

米穀證券現物問屋
京城古市町（南大門停車場前）
合名會社 米穀有價 柴山組
電話一二九八増設電話一六八八番
相場高低表電話日報及店員を派遣して御知らせ致します
米 公 山 株 債

京城旭町一丁目
齋藤齒術所
電話一四一四番

世界中荷も音樂に嗜好を有する人士の家庭に於ける唯一の良機
一臺の蓄音機を家庭に備ふれば國歌樂隊オーケストを初めとし薩摩琵琶謠曲琴三味線義太夫長唄其他一切の俗曲浪花節等に至る迄名士の妙音美聲の原音を直接聽くの感あり
蓄音機は諸君の欲するが儘に愛賞する音樂を幾回なりとも繰返して奏演せしむる事を得るなり
ヴイクター會社製蓄音機械音譜各種荷着發賣
日本蓄音器商會 何品に不限御便利買次仕候間定價表及音譜目錄御一報次第進呈仕候
東京竹內製金庫 東京堀井謄寫版 卿筒及び消火器 特許品文房具類
日本蓄音器商會特約店
京城本町一丁目 熊平支店
電話六二四番・振替口座京城貳貳番

眼科專門
前大韓醫院眼科部長
京城本町六丁目（元軍司令部通り）
金井眼科醫院
電話一五五六番
金井豊七

獵銃 獵具 火藥
增戸銃砲店
京城本町六丁目

◎●◉
襖材料御賣並ニ襖製造
仕入レ建具類及ビ附屬品各種
簞笥類各種
建具製造販賣
建具製造 襖材料卸 商
京城南大門外御成町
三好市太郎
電話五九六 振替口座京城一九七番

主治
●赤痢病●コレラ病●腸胃加答兒等に用ひて奏効速なり
●常に朝夕一粒宛服用すれば腸胃の疾病を治し食物の消化を助くす
くだり病一切の特効藥
健胃固腸丸
藥價 貳拾粒入五錢 四十五粒入拾錢 百粒入 三百粒入五十錢 七百粒入壹圓
本劑ハ全國到る所の賣藥店にて取次販賣せり
本店より御求めの節は商標と谷回春堂なる御注文にかゝる物に限り
大阪市東區伏見町澤筋角 本鋪 谷回春堂
（電話東四五八番）（振替貯金番號八三〇）
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城千六十八番

特約販賣 薄口醬油 仁川京城 高雄支店

磨擦白米 龍山精米所 京城米倉町 電話一二一番

十月中 滊船出帆廣告
安平丸 天草丸 成歡丸 海利丸 成歡丸
平壤行 十月十七日前十一時
海州行 十月十七日前十時
舊島行 十月十八日前十一時
海州芝行 十月十八日前九時
大湖行 十月十九日前十時
仁川本町四丁目 電話一七三番
合資會社 秋田商會船舶部